

2022年度 日本曹達グループ 株式会社日曹建設 CSR活動方針と目標(1/2)

領域	マテリアリティ	SDGsとの関連	10年後の望む姿	KPI(主要業績評価指標)
企業価値を高めるCSR	<b>アグリカルチャー</b> 食料確保と持続可能な農業へ ・世界の食料供給への貢献 ・作物保護の多様化 ・農業生産の効率化・省力化 (建設会社としての農業施設建設の取組)	 目標2: 飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を推進する。	・農業問題、食料問題に取り組みビジネスとして成功している化学企業グループ。 (企業グループ一員継続)	(1)セミナー開催状況 (2)取組み状況
	<b>ヘルスケア</b> 健康をすべての人へ ・製品の高機能化と資材技術支援 (高齢者・障害者が暮らしやすい住環境)	 目標3: すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。	・健康問題に取り組みビジネスとして成功している化学企業グループ。 (企業グループ一員継続)	(1)貢献状況 (2)セミナー開催状況
	<b>環境</b> 健全な資源循環の実現へ ・水資源供給の安定化 ・廃棄物による環境負荷の低減 (工事施工における産業廃棄物の取り扱い)  住環境整備 (長期優良住宅、耐震改修、省エネ、等)  (建設機械＝低燃費、低騒音、低振動) (省エネルギーを考慮した施工)  持続可能な植物保護へ ・貴重な松などを害虫から守る (環境を配慮した施工の取組)	 目標6: 安全な水とトイレを世界中に！ すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。   目標11: 住み続けられるまちづくりを！ 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。   目標12: つくる責任、つかう責任！ 持続可能な生産消費形態を確保する。   目標15: 陸の豊かさも守ろう！ 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。	・地球環境問題に取り組みビジネスとして成功している化学企業グループ。 (企業グループ一員継続)  ・土地の開発行為 ・顧客のリピート  ・土地の開発行為 ・顧客のリピート	(1)貢献した水の量 (2)取組み状況   (1)取組み状況
	<b>ICT*1</b> 化学素材の機能性を情報電子機器へ (1)人や環境に優しい高機能材料の提供	 目標9: 産業と技術革新の基盤を作ろう！ 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。	・情報・遠視分野の発展を材料から支えビジネスとして成功している化学企業グループ。	(1)当社品貢献端末数
	<b>次世代を見据えた取組み</b> 低炭素社会の実現へ ・低炭素製品の供給貢献 ・水素社会の実現に向けた取組み (断熱材、複層ガラス、珪藻土 他 地球温暖化を考えた居住環境の提供)  日本曹達グループだけでは、実現できない目標をパートナーシップで実現する ・企業・団体と目標への理念共有と協働  次世代を担える人材育成 ・安全を未来に継承できる教育システム  次世代への研究開発 ・人間社会、地球環境が継続的に発展でき、ビジネスにつながる研究開発	 目標13: 気候変動に具体的な対策を！ 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。  1) アグリカルチャー 微生物農薬、微生物産生物農薬  2) ヘルスケア 植物原料による医薬品添加物  3) 環境 生分解性プラスチックの開発 水素製造・貯蔵関連技術の研究  4) ICT 二次電池材料 環境負荷低減型材料の開発  5) 自然エネルギーの利用 太陽光、風力、地熱 等   目標17: パートナーシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる。  ・人材育成を主とする、各状況及び環境における教育、指導、伝承等を計画し実行する	・低炭素製品の供給で低炭素社会に貢献し、ビジネスとして成功している化学企業グループ。  ・独自システム建築の考案、提供  ・複数の企業や団体と価値観を共有して目標を実現でき、ビジネスとして成功している企業グループ。  ・CSRの理念を持ちビジネスとして成功できる人材が育っている化学企業グループ。 ・製品を通じ社会貢献ができ、かつ、ビジネスとして成功できる企業グループ。	(1)取組み状況       (1)取組み状況  (1)育成状況  (1)研究状況

注) は、日曹建設対応の主な取組み。赤字は日曹建設の主な取組。

\*1 Information and Communication Technology (情報通信技術)

2022年度 日本曹達グループ 株式会社日曹建設 CSR活動方針と目標(2/2)

	領域	活動方針(考え方)	項目	目標	行動目標	KPI
企業価値を守るCSR	マネジメントシステム <sup>RC</sup> および組織統治 <sup>CSR</sup>	「法令等を遵守し健全で透明な企業活動」を行うためにRC活動倫理を基本にRCコードに基づいたPDCAサイクルとして、目標設定・改善・定期的見直しを継続的に推進します。 CSRで言う、7つの社会的責任の原則(説明責任、透明性、倫理的な行動、ステークホルダーの利害の尊重、法の支配の尊重、国際行動規範の尊重、人権の尊重)に則り、事業活動を行います。	(1)活動	適正な運用	PDCAサイクルによる継続的改善。	各活動のKPI
	環境保全 <sup>RC</sup> ・CSR	省エネ、省資源、廃棄物の削減・リサイクル、有害物質・地球温暖化ガスの排出削減、水資源の保全、生物多様性、生態系の影響低減に努め、事業活動による環境影響を最小限にします。	(1)環境異常	発生件数ゼロ	環境影響評価によるリスク低減対策の実行。ヒューマンエラートラブル防止対策の計画実施。	(1)法令違反件数
			(2)エネルギーCO <sub>2</sub> 排出量	基準年度比1%削減	排出量削減取組の周知徹底、節約徹底。RCパトロール強化。環境管理委員会で啓蒙。	排出量・EA21
			(3)地球温暖化ガス排出量削減自動車燃費	基準年度比1%向上	低燃費エコカーの配置。エコドライブの周知。	燃費・EA21
			(4)水資源の保全 本社水使用量 現場水使用量	基準年度比1%削減 基準年度比1%削減	節水の周知徹底。委員会での啓蒙。節水の周知徹底。RCパトロールの強化。	使用量、EA21 使用量、EA21
			(5)廃棄物 建設廃棄物	リサイクル率97%	ゴミ分別の周知徹底、電子マニフェスト。RCパトロールの強化。	リサイクル率 EA21
	保安防災 <sup>RC</sup> ・BCP	重大な建設災害を防止し安全で安定した、設計・施工管理を推進します。BCP(事業継続計画)を確立し継続的に改善を行います。	(1)重大災害	無災害	重大災害ゼロの達成。RCパトロールの強化。安全研修等への参加。	(1)事故件数
			(2)BCP(事業継続計画)維持・改善	PDCAサイクルによるBCPの維持・改善	定期的BCP見直しと新たなリスク等への対応。緊急事態訓練の実施。	(2)BCP見直し状況
	労働安全衛生 <sup>RC</sup>	無災害で元気に働く喜びを感じる事のできる職場づくりを推進します。	(1)労働災害 休業・不休業	無災害	安全作業基準の周知徹底。RCパトロール強化。安全衛生教育の実施。過去の災害事例の活用。リスクアセスメント、RKY、ヒヤリハット。	(1)労働災害件数
			(2)健康経営の推進	私傷病発生件数と休業延べ日数ゼロの達成	定期健康診断のフォローアップ。心と体の健康教育、講座への参加。	(1)私傷病発生件数 (2)精密検査の受診率
品質保証 <sup>RC</sup>	設計・施工管理において、品質苦情・クレーム・瑕疵工事ゼロを目指し、顧客満足に貢献します。	(1)品質苦情・クレーム・瑕疵工事	発生件数ゼロ	品質教育(ISO)の実施。QMCの取組。社内検査の強化。	(1)発生件数 RCパトロール	
		(2)顧客の安全と安心の確保	顧客満足度100%	品質教育(ISO)の実施。部門会議、着工前会議の実施。品質管理を含む各種検査の実施。	(2)顧客満足度 引渡し検査	
製品安全 <sup>RC</sup>	設計・施工管理において、関連各種法令を遵守し、お客様に対し安全安心な製品をお届け出来るよう努力します。	(1)法令遵守	顧客満足度100% 定期巡回の実施	お客様の声アンケート実施。顧客訪問、定期巡回を実施し顧客とのコミュニケーションを強化。住宅等顧客の日常活動における安全の確保。	(1)顧客満足度 (2)定期巡回報告	
社会活動	お客様とともに(消費者課題 <sup>CSR</sup> )	課題の共通認識により顧客満足に貢献します。	(1)消費者課題	消費者要望、社会からの要請に適切な対応	顧客要求に対する適切で迅速な対応。	(1)取組み状況
	従業員とともに(人権 <sup>CSR</sup> ・労働慣行 <sup>CSR</sup> )	人権を尊重し、その重要性及び普遍性の両方を認識し行動します。社会的に責任のある労働慣行は、社会の正義及び平安に必要不可欠であり、法の支配の尊重及び社会に存在する公正意識に及ぼすことを認識して行動します。	(1)多様性の受容	女性、高齢者の雇用費率の向上	多様な人材の能力を最大限発揮させる企業文化の醸成と職場環境整備推進。	(1)職制表
			(2)働きがいと誇りが持てる職場づくり	従業員の職場満足度の把握と向上	上下間コミュニケーション(相互の情報伝達)の充実。仕事のやりがい、チャレンジ意欲の向上を図る。	(2)育成の仕組み 面談状況
	取引先とともに(公正な事業慣行)	取引先との対話に取り組み、公正・公平で健全な取引を推進します。	(1)取引先	公正で公平な取引	購入先を選定する場合には、品質、価格、納期、技術開発力、安定供給等の諸条件を公平に比較し評価する。	(1)行動規範順守 状況 (2)業者評価
	株主とともに	正確でわかりやすく、公平かつタイムリーな情報開示に取り組みます。	(1)株主	建設的な対話、公平かつタイムリーな情報開示	株主との対話	(1)対話状況
地域社会とともに(コミュニティ参画および開発・社会との対話 <sup>RC</sup> )	環境保護・安全について諸活動に参加し、設計・施工管理について利害関係者との対話に努め社会からの信頼の向上に努めます。法的要求事項を遵守し透明性を高めます。	(1)地域懇談会・コミュニティ参画	地域懇談会・関わり回数維持と内容の充実	地域行事への参画、地域ボランティア活動の継続	(1)対話・関わり の件数	
		(2)法的およびその他の要求事項	逸脱件数ゼロ	改正法の周知、法的要求事項順守評価表の確認	(2)逸脱状況	
		(3)ステークホルダーエンゲージメントの積極的実施	年1回	ステークホルダーエンゲージメントを積極的に実施し、得られた評価をCSR活動の改善に活かす。	(1)対話・関わり の件数 (3)業者評価	
ガバナンス	コーポレートガバナンス	法律の順守と健全で透明性の高い企業経営を行います。	(1)体制	コーポレートガバナンス体制の維持改善	法律の順守と健全で透明性の高い企業経営を行う。	(1)ガバナンス体制
	コンプライアンス	「日本曹達グループ行動規範」の周知により、法令順守・企業倫理にもとづいた企業行動を徹底します。	(1)法令順守	法令順守体制、教育の継続	「日曹グループ行動規範」を定期的に周知教育し、アンケートを行う。	(1)法令違反状況

2022年 4月 1日

株式会社日曹建設 CSR推進委員長 代表取締役社長  
渡邊 俊幸

注) 本活動方針と目標は、2022年度日本曹達グループCSR活動方針と目標を基本として当社の業態の違いに応じて、アレンジしたものである。